

## 阪神・淡路大震災から31年

2026.1.19 校長 西谷 秀幸

### 青健ドッジボール大会の表彰

今から31年前の1995（平成7）年1月17日午前5時46分。日本で、とても大きな出来事がありました。一体何があったのでしょうか。

兵庫県の神戸という、大きな街の近くで大きな地震がありました。そして、神戸を中心に、6434人が亡くなり、25万棟以上の家が壊れました。

この大きな地震と地震による被害のことを「阪神・淡路大震災」と言います。

震度7というものすごく大きな地震だったので、大きなビルも倒れたり壊れたりしました。また、地震が起きたのが朝の5時46分だったので、多くの人たちが寝ていました。たくさんの家がつぶれ、1階で寝ている人は、家の下敷きになって閉じ込められました。

その後、街中に火事が広がり、たくさんの建物が焼けてしまいました。

校長先生の知り合いの話によると、つぶれた家の下から「助けてくれ～」という声がたくさん聞こえたそうです。そこで、交番に助けを求めに行ったそうなのですが、警察の人には、何と言われたと思いますか。

「助けてあげたいけど、街中の家がつぶれて警察官の数が足りないので、助けに行けない…」と言われたのだそうです。消防士さんたちも大きな火事や建物が倒れた場所に行っていて、1つ1つのつぶれた家に助けに行くことができませんでした。

街中で火事が起きたこともあり、たくさんの人が亡くなりました。しかし、助かった人もいました。では、助かった人は、一体誰が助けたのでしょうか。

それは、近所の人、街の人たちです。助かった人の10人中8人は、倒れた家の中から街のたちが助けだしたのだそうです。

倒れたのは、家やビルだけではありませんでした。なんと、高速道路も壊れてしまったのです。そのため、車を運転していたときに高速道路が壊れて亡くなった人もいました。あるバスの運転手さんは「地震だ」と思って急ブレーキをかけて止まった瞬間、運転席の下的高速道路が崩れ落ち、バスの後ろ半分だけが奇跡的に引っ掛かっていて、助かったなんてこともありました。

この地震は、神戸という関西地方で起きたので、東京には全く被害がありませんでした。だから、皆さんは関係ないと思っている人が多いと思います。

しかし、皆さんの住む東京も、30年以内に大きな地震が起きる可能性が70%、つまり、皆さんが生きているうちに、東京で大きな地震が必ず起きると言われています。

神戸の街と同じように、東京にもたくさんの人が住み、たくさん家がありますから、もしも東京で大地震が起きたら、阪神・淡路大震災のように家がつぶれたり火事がおきたりして、2万3千人が亡くなってしまうのではないかと心配もされています。

地震はとても怖く、いつ起きるか分かりません。だから、過去にあった大きな地震や被害を忘れないようにして、いざというときに備えていく必要があります。

皆さんの家でも防災グッズはそろっているでしょうか。また、いざというときの約束事が決まっているでしょうか。家で、ぜひ、確認してみてください。

これで朝会のお話を終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

## 〈先生方へ〉

先日は、3学期第2週、お疲れさまでした。3学期は、あと45日（6年生は46日）となりました。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言います。1つ1つ大事にしながら次の学年に向け、残りの日々を過ごすように御指導ください。

土曜日には、学校公開と学級活動の日があります。準備をよろしくお願いします。また、水曜日には、校内研の2年生の授業研究があります。先行したクラスでの授業をもとに、より良く改善してきました。今週も、授業を通して、お互いに学び合っていきましょう。

さて、今日の朝会では、「阪神淡路大震災」を話題にしました。当時、神戸に住んでいた友人は「コンセントがささったままコードが切れてテレビが飛んできた。布団にくるまって何もできなかった。地震が収まったら、家にある一番高価な30万円の絵だけを抱えて外に飛び出した。」と、当時の慌てている様子を話してくれました。また、当時大学生だった知り合いは、「助けようと思ったけど、がれきの上で助けることは、2次災害といって、助ける人がケガをしたり、がれきが崩れて死んでしまったりする危険があったので、全員を助けられなかったのが悔しかった…。友達も何人も亡くなってしまった。」と話してくれました。

避難所開設システムが浸透していなかったこともあり、避難所となったある小学校では、心ない人たちが教室を占領して、授業の再開にかなり時間がかかったという話も学校関係者から聞きました。

阪神淡路大震災から四半世紀（31年）が経ちましたが、東日本大震災と合わせて風化されないように子供たちに伝えていくとともに、いざというときに備えて、教訓を生かしていかなければなりません。首都直下地震が、今後30年以内に起きる可能性が70%とされている東京ですから、いざというときのために、特に都市型の地震の教訓を阪神・淡路大震災から得ていきましょう。

### 【資料】 阪神・淡路大震災について

□阪神・淡路大震災は1995年（平成7年）1月17日（火）5時46分52秒に発生した兵庫県南部地震による大規模地震災害である。淡路島北部沖の明石海峡（深さ16km）を震源として、マグニチュード7.3を記録した。

□被害は兵庫県を中心に近畿圏の広域であった。特に震源に近い神戸市市街地（東灘区・灘区・中央区〔三宮・元町・ポートアイランドなど〕・兵庫区・長田区・須磨区）の被害は甚大で、日本国内のみならず世界中に衝撃を与えた。

□死者:6,434名、行方不明者:3名、負傷者:43,792名は、戦後に発生した地震災害としては東日本大震災に次ぐ規模である。死者の80%相当（約5,000人）は木造家屋が倒壊し、家屋の下敷きになって即死した。特に1階で就寝中に圧死した人が多かった。

□関東大震災では、木造住宅が密集する地域での火災が被害を大きくしたため、主に焼死により日本の災害で最悪となる約10万人の死者を出した。また、東日本大震災では津波による水死を中心に1万5千人を超える戦後最悪の死者を出した。しかし、阪神・淡路大震災は断層沿いに被害が集中して、被災地域が狭かったものの、冬季の早朝に発生したため自宅で就寝中の者が多く、圧死を中心に6千人を超える死者を出した。